

第40回

喜多流

青年能

巻絹 佐藤 陽

六浦 谷 友矩

鶏飼 高林昌司

平成28年9月24日(土)

◆12:00開演(11:15開場)◆

十四世喜多六平太記念能楽堂

主催:公益財団法人 十四世六平太記念財団  
後援:品川区・品川区教育委員会

チケットご購入のご案内

一般4,000円(前売3,500円)/学生2,500円(前売2,000円)

発売日:平成28年6月26日(日)

インターネット 24時間対応/要事前登録(無料)

喜多能楽堂ホームページ  
<http://kita-noh.com/>  
【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン  
ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

②窓口(喜多能楽堂事務局)  
クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのWeb決済)、ご予約の際画面に表示された番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813  
【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン  
ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送  
チケット代金を指定の郵便振替口座にお振込みください。入金確認後、チケットをお届けいたします。

③窓口(喜多能楽堂事務局)  
ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓 □ 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813  
【お受取り・お支払い】お支払いは現金のみとなります。

\* ご注意 \*

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー見所での飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

・各同人でもチケット受付しております。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9  
tel.03-3491-8813



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

お客様専用駐車場はございません。お車での来館はご遠慮願います。

次回喜多流青年能予告

平成29年5月27日(土)11:15開場/12:00開演

能「芦刈」佐藤 寛泰

能「源氏供養」谷 友矩

能「野守」高林 昌司

ほか狂言・仕舞

番組組

仕舞

兼平 金子龍晟  
班女 佐藤寛泰  
殺生石 友枝雄太郎

谷友矩  
大島輝久  
内田成信  
塩津圭介

能

シテ連(男) 狩野祐一

シテ(巫女) 佐藤 陽

巻絹

ワキ(臣下) 高井松男

アイ(太刀持) 河野佑紀

大鼓 柿原光博  
小鼓 鳥山直也

大鼓 小寺真佐人  
笛 杉 信太郎

後見 金子敬一郎  
高林昌司

地謡 友枝雄太郎  
塩津圭介  
友枝真也  
佐藤寛泰

栗谷浩之  
狩野了一  
栗谷明生  
友枝雄人

狂言

柿山伏

シテ(山伏) 野村拳之介

アト(畑主) 野村万蔵

休憩二十分

能

谷友矩

六浦

後シテ(楓の精)  
前シテ(里女)

ワキ(僧) 野口能弘

ワキ連(從僧) 野口琢弘

ワキ連(從僧) 吉田祐一

アイ(六浦所の者) 能村晶人

大鼓 大倉慶乃助  
小鼓 飯冨孔明

大鼓 大川典良  
笛 小野寺竜一

後見 友枝雄人  
友枝真也

地謡 友枝雄太郎  
佐藤寛泰  
大島輝久  
狩野祐一

佐々木多門  
長島 茂  
出雲康雅  
栗谷充雄

休憩十分

能

高林昌司

鶉飼

後シテ(閻魔王)  
前シテ(鶉使の霊)

ワキ(旅僧) 宝生欣哉

ワキ連(從僧) 館田善博

アイ(石和の里人) 野村虎之介

大鼓 原岡一之  
小鼓 森 貴史

大鼓 林 雄一郎  
笛 栗林祐輔

後見 狩野了一  
谷友矩

地謡 金子龍晟  
塩津圭介  
佐々木多門  
佐藤 陽

高林呻二  
金子敬一郎  
大村 定  
内田成信

附祝言

五時頃終了予定

巻絹(まきぎぬ)

帝は夢の告げを受け、全国各地から熊野大社へ千正の巻絹(絹の反物)を奉納するよう勅命を下した。それを受け帝の臣下(ワキ)は熊野で巻絹の到着を待っている。京都からも巻絹を納めるため男(シテ連)が熊野へと向かっていたが、道中、折から咲き誇る梅の香に惹かれ音無の天神に立ち寄り、天神に和歌を手向けていたことから熊野へ遅参し、その罰として縄で拘束されてしまう。

そこへ神託を受けた巫女(シテ)が現れ、この者は神に歌を捧げた者であるから、その罪を赦せと言う。臣下は、この様な賤しい男が本当に和歌など詠めるのかと怪しみ、男にその上の句を詠ませると、巫女はその下の句を継いだので、男は拘束を解かれることができた。男「音無しにかつ咲きそむる梅の花」。巫女「句はざりせば誰か知るべき」。

巫女は和歌の徳を称えて舞を舞い、求めに応じて祝詞を奏上し神楽を舞う。さらに巫女は神掛りとなつて狂い舞うが、やがて神気が離れて正気に戻るのだった。

六浦(むつら)

京都から東国へ旅をしている僧(ワキウキ連)が、途中、鎌倉の六浦の里にある、称名寺に参詣する。折から山々の紅葉は今を盛りと色づいているが、本堂の庭に生えている楓の木一本だけ何故か紅葉していない。僧が不思議がつっていると、女(前シテ)が現れその謂れを語る。かつて鎌倉中納言が相卿がこの地を訪れた際、山々の紅葉が未だ色づいていないのに、この楓一本のみ赤々と色づいていたのを見て「いかにしてこの一も時に時雨けむ 山に先立つ庭のみみち葉」と和歌を詠んで以降、紅葉を止めているのだと言う。この楓の木は、山奥で人もめつたに出来ないこの古寺に生えている自分が、為相卿の和歌に詠まれるという栄誉を受けたので「功成り名遂げて身退くはこれ天の道なり」という古い言葉を守り、紅葉を止めているのだ、と。

あまりに女が詳しいので、僧が不思議がつて素性を尋ねると、女は、実は自分はこの楓の木の精であり、読経してもらえれば、今夜再び姿を見せようと言い、姿を消す。

僧が夜もすがら経を唱えていると、楓の精(後シテ)が現れる。楓の精は、四季折々の花を愛で、仏教の草木国土悉皆成仏の教えの尊さを讃えて舞を舞い、夜明けと共に浦風山風に吹き乱れる紅葉に紛れて消え去る。

鶉飼(うかい)

安房の清澄から旅に出た僧(ワキウキ連)が、甲斐の石和川のほとりにやって来る。御堂に一夜を明かそうとすると、そこに鶉使いの老翁(前シテ)が現れる。僧は、殺生の行いをやめるよう老翁を諫める。從僧は、過去にもここで同じように鶉使いに忠告したことを思い出したが、老翁によるとその者は殺生禁断の地での漁が発覚し見せしめに殺されたという。老翁はその様子を物語り、やがて自分がその鶉使いの霊であること明かし、僧に用いを頼む。鶉使いの霊は僧の求めに応じて、鶉飼の有様を再現するが月夜に紛れて姿を消す。

僧は、彼の供養のため、河原で拾った石に法華経の經文を記して沈め、鶉使いの霊を弔っていると、閻魔王が現れる。閻魔王はかの鶉使いが生前、僧に一夜の宿を貸したその功德から罪を赦し、彼を菩提に至らしむることを告げる。また、法華経の利益を称え、いかなる悪人であっても極楽往生させることができる、といえる仏の教の利益を語るのだった。